

令和4年度 『校長あいさつ』

堀津小学校校長 安藤 理加

4月7日(木)、22名の新生を迎え、全校児童165名と教職員23名で、新年度がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の心配を抱えながらも、始業式、入学式を行うことができたのも、保護者の皆様がお子さんの健康管理に留意しながら春休みを過ごし、笑顔で送り出していただいたおかげです。感謝申し上げます。



しかし、依然として新型コロナウイルス感染症の猛威はおさまるところを知らず、高止まりが心配されるところです。引き続き感染症対策をよろしくお願いいたします。

私たち職員一同は、子どもたちにとって、また、保護者、地域の皆様にとって、よりよい年となりますよう、教職員一丸となって教育にあたっていく所存です。ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、子どもたちが生きていく未来は、変化のスピードが速く、予測不能な世の中になると言われています。今まで以上に、子ども一人一人と向き合いながら、個別最適な教育やよりよい視野を持ち予測が難しい社会の中で生き抜く力をつけるための実践的な教育の推進、多様な学びを支援する教育体制の充実、学校と地域とが一体となって進める教育が必要になると言われています。

しかし、来るべき社会がどのように変わろうとも、私たち教育者の使命は、社会の変化に主体的に対応し、人間性豊かにたくましく生き抜いていく子どもを育てていくことだと考えています。

本校の教育目標である「**よく考え あたたかい心で語り合い たくましくやりきる子**」は、まさに今の時代を生き抜く子どもたちにとっても必要な力を表しています。子どもたちには、まず、自分で考えさせ、願いや夢をしっかりともち、それに向かってがんばり続ける自主・自立の心を育てていきたいと考えます。次に、ものや人を大事にする協働・共生の心をもち、最後に、願いを達成するためによりよく高めていこうとする創意・工夫の心を培います。

今年度は教育活動を通して、まずは自己決定をさせ、子どもの判断を尊重しながら、それを最後までやりきれるよう支援していくことが大切であると考えています。そして、自分の決めたことをやりきった時には大いに褒め、次に目指すべき方向を示します。こうしたサイクルを通して、『主体性』や『たくましさ』を育てていこうと考えております。

具体的には、3つのことに力を入れて取り組みます。1つ目は、「心と体の健康第一」です。まずは、感染症対策に力を入れて取り組むと共に、心と体が元気いっぱいになるよう夢のある教育活動を推進していきます。2つ目は、「ふるさと教育の推進」です。ふるさとである堀津、羽島に目を向け、地域人材や物的資源を生かしながら、ふるさとのよさに触れ、愛着をもつ気持ちを育てていきたいと考えております。3つ目は、「ICT教育の推進」です。未来を生きる子どもたちに必要なコンピュータリテラシーや情報モラル教育を含め、ICT を効果的に活用できるための資質能力を高めていきます。

子どもたちが未来を切り開き、あたたかい心で、心豊かに生きていってくれることを願っています。そのためにも、将来を見据えながら、目の前の子どもたちを教育していく必要があります。今、行っている教育(家庭でのしつけなども含む)は、将来の子どもたちへの贈り物(投資)です。

学校、家庭、地域が心をつなげて、教育(共育)にあたっていきましょう。

今年度も、よろしくお願いいたします。